

8月18～19日  
茨城で宿泊学習

海と日本プロジェクト in 栃木県実行委員会、とちぎテレビ主催の「海と日本プロジェクト サガンボ恩返し隊 2019～海へとつながる栃木の暮らし」が18、19日の1泊2日で実施されました。県内在住の小学5、6年

生21人がとちぎ海浜自然の家（茨城県銚田市）に宿泊し、栃木県の郷土料理「サガンボ」（サメの切り身）の由来を学び、体験学習などを通して栃木と海とのつながりを考えました。



# 海の今を知って 海の明日を考えた



## 県内小学生 21人が体験

今回は特に、宇都宮共和大学荒井一成教授の指導の下、生物に欠かせない鉄分を海に増やすプロジェクト「河川ミネラルましまし」を通して海について考えました。

同隊は最初に県立博物館人文課長篠崎茂雄さん

からサガンボについてのお話を聞きました。栃木県にはかつて海があったこと、内陸になった後にも茨城県や福島県の海から傷みにくいサメを運び、食べていたことなど、栃木県と海とのつながりを学んで、茨城に出発。

とちぎ海浜自然の家に到着後、茨城県水産試験

場経営普及室長の渡邊直樹さんから茨城県の海についてのお話を聞き、栃木県の川は茨城県の海に流れていくことなどを学びました。

続いて「河川ミネラルましまし」に取り組みました。荒井教授から①海岸にある鉄ごみを集める②鉄ごみを河川で生かす③そのためにふさわしい装置を開発する一というミッション発令です。

まず、「海にある鉄ごみを集める」ための装置

を作成。身近にある道具と磁石を使い、全員がそれぞれ工夫を凝らした装置を作りました。

2日目は午前中に砂浜でビーチコーミング（漂着ごみの収集）。川や町から漂着してきているたくさんのごみや、海を漂流したプラスチックごみがマイクロプラスチックとなり、砂浜に広がっている光景を目の当たりにし、全員びっくり。それぞれ一生懸命にごみを収集し、分別しました。

午後は、大洗サンビー

チでサーフィン体験後に自分たちが開発した鉄ごみ拾う装置でたくさんの鉄ごみを拾い集めました。装置の収集力は目を見張るもので、くぎや王冠などの鉄ごみをどんどん拾いました。

最後に、宇都宮に戻ってきてから、「河川ミネラルましまし」のミッション②と③を実行。鉄ごみを河川で生かすにはどうしたらいいか、荒井教授と一緒に真剣に考え、話し合い、2日間のプロジェクトは終了しました。



### 今回子どもたちが学んだこと

- ①サガンボは昔から海から運んできて栃木の人食べていた。
- ②サガンボの故郷の海が汚れるのは栃木県も関係がある。なぜなら川と海がつながっているから。
- ③だから自分たちにできることがある。

萩庭悠太くん  
(石井小5年)

茨城の海にこんなにゴミがあって生き物が住みづらくなっていることが驚いた。人間の身勝手動物に申し訳ない。

宇佐美寛汰くん  
(戸祭小5年)

マイクロプラスチックはすごく小さく動物がのみ込んだら危ないと思う。人間はただ捨てるだけだけど、それはすごく大きなことだと思った。

入月里彩さん  
(雀宮南小5年)

海岸にたくさんのごみが落ちてびっくりした。魚たちに迷惑なごみのポイ捨てはよくない。

会津貴一朗くん  
(大宮北小5年)

鉄と生き物が関係していることがわかり楽しかった。海の生物とも触れ合えた。海のごみの量に驚いた。楽しむのはいいけれど、ごみを捨てるのはいけないことだと思った。

須田雅也くん  
(豊郷北小5年)

鉄がいろいろな生物と関係しているということがわかった。川にきたないごみは流さないようにする。

手塚琉莉さん  
(宇大付小5年)

栃木県には海がなくて、海が汚いということ知らなかった。海にごみがたくさんあってびっくりした。川にごみを捨てると海に行くから捨てないようにする。

